

ひろしま男子駅伝 広島チーム代表候補選手強化合宿

第4回【平成25年7月13日（土）～15日（月） 会場：道後山高原】

第4回目の強化合宿は、今年初めて一般選手を含む強化合宿となった。メンバーは高校5000mランキング上位4名と中高時代出場経験のある大学生3名を、中学生は平成25年7月6日・7日実施の第59回全日本中学校通信陸上競技広島県大会において、3000m及び1500mで全国大会標準記録突破者を招集し実施した。

練習は朝6時、午前11時、夕方5時にクロスカントリーコースや400mトラックを利用して実施した。本練習において大学生は高校生を、高校生は中学生を引っ張り、またウォーミングアップやクーリングダウンにおいても一緒に走ることで選手間の交流を深め、岩本真弥監督が常々掲げている「チーム34」を深めながら実施できた。また、標高の高い道後山高原とあって、練習時の気温が24℃前後であり、普段の各学校での練習環境とは全く違い、好条件で練習をこなせていた。中学生選手の一人は「フリージョッグで大学生と一緒に走ってくれ、アドバイスをしてもらったり、高校生に生活面の話をしてもらい参考になった。また、岩本監督から朝食は金、昼食は銀、夕食は銅と教わり、朝食の大切さを学んだ。今後を活かしたい。」と振り返った。

閉講式では岩本監督から「今回で4回の合宿を終了した。この中から代表となる可能性は高い。高校生はインターハイを経て、今夏をしっかりと乗り越え駅伝シーズンに向け力をつけること。中学生は全国大会で臆することなく、失敗を恐れず、34番のナンバーカードを胸に良い経験をしてもらいたい。そして、この合宿を単体で終わらすのではなく、それぞれの学校に戻ってからの練習へつなげることが重要。この合宿と今後の練習とを1本の線につなげてほしい。」と締めくくり、第4回合宿を終了した。



大学生が高校生を引っ張る



高校生が中学生を引っ張る



クロカンコース



食事中に監督から助言

追記

通信大会・県選手権大会において、男子3000mでは10名の全国大会標準記録突破者を輩出し、大瀬戸 積コーチが次のようにコメント。

「中学生選抜メンバーは、この合宿を重ねるごとに仲が良くなり、また良きライバルとなっていった。それが通信や県選で『一緒に全国に行こう！』という絆となり、レースにも表れた。結果、選抜メンバーは皆、全国切符を掴んでくれた。本事業の成果が顕著に表れたと思う。本事業にご協力いただいている広島陸協に感謝するとともに、今後の飛躍を見守っていただき、更なるご協力をお願いしたい。」